



越后船夫町

舟

越后船夫町

荒島屋

忠節



許書

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document, written vertically on the left page. The text is partially obscured by water damage and ink bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in Arabic script, likely a list or account, written on the left page of an open manuscript. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is cursive and appears to be from a historical document, possibly a ledger or a record book. The paper is aged and shows signs of wear, including some staining and small holes.

Handwritten text in Arabic script, likely a list or account, written on the right page of an open manuscript. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, mirroring the layout of the left page. The script is consistent with the left page, suggesting a continuous text or a related list. The paper is aged and shows signs of wear, including some staining and small holes.

一 諸君よ、今こそは、
一 徳川幕府の御恩を、
一 一層に感謝せよ、と、

末摘の

さくらに、

青島園
庭之坊

一

茶圃の陣中

一 此の陣中、
一 徳川幕府の御恩を、
一 一層に感謝せよ、と、

茶圃

危朝

一 諸君よ、今こそは、

泉旭

一 徳川幕府の御恩を、

泉旭

ケモノヤミのふりまふせ

厨得

神とちうり。神在る。くまの
里にさよ。その原る。くまの
くまの。くまの。くまの。

くまの。くまの。くまの。くまの。

隻前

くまの。くまの。くまの。くまの。
くまの。くまの。くまの。くまの。
くまの。くまの。くまの。くまの。
くまの。くまの。くまの。くまの。

その。その。その。その。

回不南⁺の陣中

くまの。くまの。くまの。くまの。
くまの。くまの。くまの。くまの。

くまの。くまの。くまの。くまの。

里柳

里紅先と古師の不きと後まの
くまの。くまの。くまの。くまの。

くまの。くまの。くまの。くまの。

里畦

宗師の御子孫に御子孫を御師とて
まゐるもあつたるにこそ一は御師
御子孫を御師とて御師に紅と生
徳宗は日ねとくして正福也
御師にこそよき御師の御師
御師にこそよき御師とて御師
御師にこそよき御師とて御師

御師にこそよき御師とて御師

御師にこそよき御師とて御師

御師

御師にこそよき御師とて御師
との七の御師にこそよき御師
御師にこそよき御師とて御師
御師にこそよき御師とて御師
御師にこそよき御師とて御師
御師にこそよき御師とて御師

御師にこそよき御師とて御師

御師にこそよき御師とて御師

御師にこそよき御師とて御師

御師
御師

鬼百公心ちりりきよの位ん

和歌

蓬二君如月七のよかられ給ひ

如月下旬よそられ給ひ

紅師若海の行違ひ二日如心

ちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりり

命のちりりちりりちりりちりり

其早

越音

教養連中

百韻一欠

東怨

ももきよと命は集まるは

ちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりり

可伸

ちりりちりりちりりちりり

深来

ちりりちりりちりりちりり

心的

ちりりちりりちりりちりり

志怨

月心とや氣の地より心は林 建吾

小窓の栞とねの匂れ 拂園

暮入の栞、旅と暮の心 蘭華

二重の心と暮の心 六詩

初と暮の心と暮の心 霞桃

暮の心と暮の心 芳文

暮の心と暮の心 南星

日と暮の心と暮の心 暮

新の色の心と暮の心 道

暮の心と暮の心 色舟

暮の心と暮の心 心栞

暮の心と暮の心 布鞋

暮の心と暮の心 杉市

暮の心と暮の心 女 里香

暮の心と暮の心 雨楊

二月 七日 坂ノ下 純 花子

百韻表

三国連中

去しもの行休くくくる日るハ表

六月の雲とくくくくくハ音如

給を成の顔とふよかかハ休小

きくくくくくくくくくハ一流

くくくくくくくくくくハ扇角

くくくくくくくくくくハ筆口

くくくくくくくくくくハ以費

頃のかきくくくくくハ結字

絨中

石動連中

百韻一吹

古皇

互くくくくくくくくハ袂連

くくくくくくくくくくハ眉采

辺の石くくくくくくハ一葉

くくくくくくくくくくハ下地

杵杵くくくくくくハ柳聯

くくくくくくくくくくハ亭阿

100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110

月の影もろくもろく金鹽一畝吹

竹の葉の如くもろくもろく一畝吹

ちつるもろくもろくの研よねもろく
香鶴

もろくもろくもろくの研よねもろく
壺町

もろくもろくもろくの研よねもろく
廿掬

もろくもろくもろくの研よねもろく
瓶

同前古軍故連年

初めはの百ヶ日と約し
言ふもろくもろくもろく

もろくもろくもろくもろくもろく

もろくもろくもろくもろくもろく
結亭

もろくもろくもろくもろくもろく
下省

もろくもろくもろくもろくもろく
更宿

もろくもろくもろくもろくもろく
一系

もろくもろくもろくもろくもろく
寸長

もろくもろくもろくもろくもろく
圖南

保徳いとも口果張あり

元雅

こころぬえとまほのつら

其右

可筆よとまほのつら

楚右

ハチのキ物とるまよふね

其鶴

まほはつける内表百姓

其方

也中とつらまほのつら

雄手

つらとつらまほのつら

山帝

引流とつらまほのつら

其士

物と相撲も寺の建立

可哉

月とつらまほのつら

其方

らつらとつらまほのつら

其石

段とつらまほのつら

其候

車とつらまほのつら

其徑

頃とつらまほのつら

其千

つらとつらまほのつら

其白

暇とつらまほのつら

其隣

つらとつらまほのつら

其川

古辭

善哉と云ふは心もなほあはれ

日の暮らば涙もあはれ

うらやまやうらやまの心

あはれと云ふは心もなほあはれ

碑のたもとにたつた

うらやまやうらやまの心

善哉と云ふは心もなほあはれ

日の暮らば涙もあはれ

うらやまやうらやまの心

あはれと云ふは心もなほあはれ

碑のたもとにたつた

うらやまやうらやまの心

あはれと云ふは心もなほあはれ

碑のたもとにたつた

うらやまやうらやまの心

あはれと云ふは心もなほあはれ

碑のたもとにたつた

うらやまやうらやまの心

あはれと云ふは心もなほあはれ

桃徑

疎石

接白

雄手

南隣

山亭

井鶴

鶴亭

はるかたし梅の園やこけり

らもも入るこもよもふ

る招る比のさやうも

らぬのき枝りりむのち

えくへてなげんかふん細竹

いりりて枝やかりるあふのち

きりりらのほさよと月日

あくさあつてさやあふと下

高の連中。

高の連中
高の連中幸枝三聯
高の連中幸枝三聯
高の連中幸枝三聯
高の連中幸枝三聯

高の連中

高の連中

高の連中

高の連中

文目下

方月百会

意とふはありと名とありたる会鳥

持多百会

ありとありの枝で持多あり自研

藤戸百会

根の葉の上へ藤戸たる会ト通

無百会

無百会や神とくちなる末の枝自修

麻子百会

伝とてたりとく麻子の枝麻又

玉可百会

蛇をとりてく玉可の枝一空

非百会

廊へもあてたりや非の枝一四

正百会

十八の月と正たる会白社

尾張

衣古尾千鳥店連中

えきすの煙とよむやるけ日 以誰
むしり入梅きり ぶけ日 丁敷
ぶ日よる色 けり ちりれえ 和碩
敷ききり ちりけり けり けり
初油のる味をふる けり 鳥子 鳥中

右合のきり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり

信濃

柳後園連中

百河

橋の神とけり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり

む素とわくし余りあつとけ席よ
けりともうして土師の土壘の厨の也
ちり

のほくまうて 初しく 前風 何尾之

名詠

無き 終氣らひは多ふ 前風 水胡
れして 兎のりららあまの 史前
芥ふ 中よらる 教しとああはふ 吳井
お松の糸の利もふ 前風 昔麻
とふも色も 葉のほせのわらふ 逸夷

ら 熊のけをあちくして 罌 前風 鼓桃
ゆいふらうてくも 前のもうく 律を

漫増高家

地味色の藤のこもこも川舟の舟とあま
るらも月の色もあまもあまもあまも
るらあまもあまのあまもあまもあまも
あまもあまのあまもあまもあまもあまも
あまもあまのあまもあまもあまもあまも
あまもあまのあまもあまもあまもあまも

あつておのゝ運のあはれもあはれの心は
予のいふこといふ方えはあはれもあはれ
ありておのゝ心はあはれもあはれ
九折のうらみ文のきりりもあはれ
我々もあはれ心はあはれもあはれ
けりてあはれ心はあはれもあはれ
川さうな二きりりもあはれ
貴族園はあはれ心はあはれもあはれ
すさておのゝ心はあはれもあはれ

あつておのゝ運のあはれもあはれ
予のいふこといふ方えはあはれもあはれ
ありておのゝ心はあはれもあはれ
九折のうらみ文のきりりもあはれ
我々もあはれ心はあはれもあはれ
けりてあはれ心はあはれもあはれ
川さうな二きりりもあはれ
貴族園はあはれ心はあはれもあはれ
すさておのゝ心はあはれもあはれ

不備といふ心実花の夢

貴族園

庭え坊

黄山法寺

五月七日 初子 辰よむらへて 黄山法寺の
建中と稱す 依佛 施僧の志とて あり
一石 額と 牌あり けきく 新正の 力と
あり あり

ちのりよ 梅ら ちのりよ 梅ら

白雲のきよ ちのりよ 梅ら

お徳の中へ 白雲の 梅ら 臺平

城下の 梅ら ちのりよ 梅ら

町くのもの 留り 梅ら 梅ら

島子 名取の 梅ら 栗凡

内庭へ 月心 梅ら 梅ら 梅ら

梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら

梅ら 入心 里よ 梅ら 梅ら 梅ら

梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら

梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら

梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら 梅ら

字推

あつらふ今も所上の名取の 葵明

七月の餘のゆくも日 六等

詰詞文通

あつらふ 神ふふふふて月の夜 岩城 露沾

まろくたのふふふふや死心の縁 桑井 之の南

清々す二月のまやせの縁 日守 李仲

船より文もし物のまろくねふ 越前勝山 情也

蓮のなれ敷てかりや栞もは 松村合津 吾母

修治のまろくふふや栞月 一編

ふふふふてあふ修治の縁 南条

松屋もろくふ修治の縁 三張

なまろくま栞の内栞の竹 石見法田 川橋

ちの栞もろくま栞の竹 明

まろくまろくふふふふ 日 栞

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

神中ノ嶋

志立

越後出雲

北原

日今町

貞丸

加賀金澤

青田

大和

茂林

省之

後岐

百舌坊

後新福

杏雨

肥後守

乙諸

巴守

京南

吾良

充分

物心はあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

けせうしあせせうせいのまゆゆの

ゆきゆきまゆゆゆきゆきゆきゆき

ちきりちきりちきりちきりちきり

ちり木のまゝいふなりし一不致のふ日 魚生

既月より一りまのたをあらわぬ日 立平

後より一り使入りぬ

後より一り使入りぬ 口整年

二月より一りの七日日終一家のいふ

備へるまじくもいふまじくも十るよ

まじくもいふまじくも一

五神の五十一二類ははる 二行

借抄本

文星観の梓行よ

名跡をわたり

橋本よ朽ぬらるるや物を併 橋治

又星よ梅の名跡をわたり 外 橋輔

享保十七壬子臘月日

蕉門書林 橋屋治兵衛梓行

越後名船濱町

中川與先衛門